

7月29日 SRC 発表

1. テーマ 「自粛期間の過ごし方」

21911255 中園龍斗

21911026 飯田 葵大

21911317 ほうりん

2. 目的と内容

コロナの国内感染者数の増加により緊急事態宣言がしかれ、長い自粛期間が始まり、今回の宣言を含め4回施行された。

そこで3回までの自粛期間中（宣言下）に人々がどのように過ごしたか調査するため50人の学生にアンケートを行い意識の変化をグラフにまとめた。

3. 方法

Google Forms で3回施行された宣言における自粛意識の変化をそれぞれ回答してもらいました。

回答者は大学生。計50人に回答していただきました。回答結果を分析しグラフにまとめた。

4. 結果と考察

一回目の緊急事態宣言の際は、コロナに対する理解や知識が低かったため、非常に強い自粛意識があったとみられる。

二回目になると初回の宣言ほど自粛意識は強くない。考えられることとしては施設などの休業が減り、若者は感染しづらいなどの理解も増えたところにあるのではないだろうか。

三回目の宣言下では一回～二回目に比べ意識がかなり下がっている。宣言中と通常時の違いが日常生活で感じられないことや、コロナ禍に対する慣れもあるだろうと考えられる。

世間は2020年ほどコロナを恐れる事はなくなり、徐々に元の生活に戻りつつあるのかもしれない。ワクチンの普及によりこの流れはもっと加速していくと考えられるが、デルタ株の急増もあるので引き続き自粛意識を持つべきだ。